

職員専門研修のご報告 第3回「求められる職員像の描き方」

自立訓練（生活訓練）事業リチェルカ 柿本大輔

令和5年4月24日（月）、管理職・主任を対象とした研修「求められる職員像の描き方」を受講しました。まず初めに、「じんざい」についてのお話がありました。同じ「じんざい」でも、「人罪」「人在」「人材」「人財」という4つの「じんざい」があり、それぞれに意味があります。その中でよく聞かれる「人材」とは、「潜在能力を持ち、今後の活躍が期待できる人」とありました。その意味をストレートに受け取ると正直、自分自身がどれほどの「人材」であるのかと考えてしまうところもありましたが、人材に求められるものとして、まずは意欲がないとダメだとお話がありました。意欲はどの場面でも求められるものだと思うし、自分自身がより良く働こうとするための大切なエネルギーだと思いました。

では意欲を持って働くためにはどうしたら良いのかというところですが、能力と役割を明確にすることが大切だとのことでした。一人で働いているのではなく、様々なものを持っている職員集団であるはずなので、能力と役割を明確にし、チームとしてまとまっていけばより良い集団ができ、求められる人材、職員になっていけるのではないかと思います。

最後に、「求められる職員」をテーマに皆でワークを行いました。一般職、主任、管理職、非常勤などそれぞれの視点から、役割や求められる能力などを整理していきました。自分のポジションだけでなく違った立場からの視点で考えていくことで新たな発見があり、考え直していかないといけないことが見えてきました。事業所が本部施設から離れている所もあり、普段はなかなか意見交換ができないこともあるので、今回の研修の場でお互い顔を合わせリアルタイムで一緒に考える時間を持つことができ有意義な研修となりました。

